

牛久：学校周辺に見る自然

第57号 中根小

2011年2月3日発行

＜冬の校庭観察～植物 その2 樹木の冬芽＞

① 鱗芽：鱗のような小さな葉に包まれた冬芽



桜（ソメイヨシノ）の冬芽

左が花芽、右は葉芽。

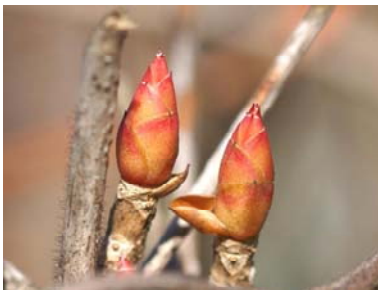


左の冬芽の縦断面



ソメイヨシノの花芽(左)と葉芽(右)の縦断面。(『果物学』より：則武敬子 画
私も分担執筆しており、中央図書館にも入っています。)

観察の前週には、ソメイヨシノの冬芽を観察してありました。芽には2種類あり、太っちょの芽には、赤茶色の鱗片が重なる中にもう雄しべまで分かる花の赤ちゃんがかくれていますね。細長い先のとがった芽には、葉っぱの赤ちゃんがつまっていたました。こうして冬の乾燥や寒さから守られているのですね。鱗片表面に、うす茶色の細かい毛が生えていることに気がついたお友だちもいましたね。桜以外にも、似たような芽をもつ木がたくさん見つかりました。「これもそう？」と、次々聞いてきましたね。毛皮のコートのような冬芽もありました。『中根小の自然』32号も参考にしてください。



ドウダンツツジ



ツバキの葉芽(左)と花芽(右)



ニワトコ



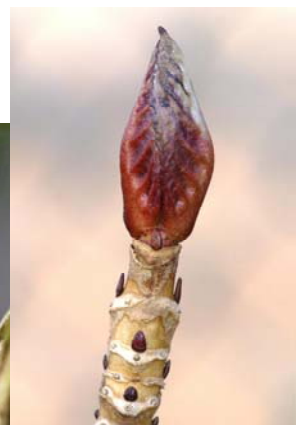
コブシ

② 裸芽：成長の止まった小さな葉が外側を包む。

葉脈が確認できる小型の葉に包まれた冬芽もありました。このタイプにはビワなどのようにたくさんの毛でおおわれているものが多いですが、アジサイはそうでなくとても寒そうに見えました。でも厚ぼったいので中は守られているのでしょう。

これで春夏秋冬と校庭の観察ができました。その成果でしょうか、皆さん、たいへん素晴らしい観察力がついたと思います。この経験をいかし、そして私が最後に言った「人間にとって過ごしやすい環境が必ずしも他の生き物にとっても快適とは限らない」ということも考えてみて下さい。

【理科支援員・宮内】



ビワ(左:稲敷市)とアジサイ(右)